R5 年度 12 月 ばら組ドキュメンテーション「遊び方の模倣」

室内遊び時、隣の部屋で、さくら組の子たちがお店屋さんごっこをしていた。
「これください」「ペイペイでお願いします」などやりとりする様子を、A 君は興味深そうに見ていた。

↓

A 君は、持っていた消防車のおもちゃを、
保育士が渡した携帯電話のおもちゃにあてて「ぺいぺい」と言っていた。

☆考察☆

今まで A 君はひとり遊びが中心だったが、集団での生活や周りとの関わりを経て、他の子の遊びに興味を持つようになった。他の子の姿を模倣することも増えてきた。

保育士はこのような姿が、子どもの言語理解や認知能力の成長に繋がっていると考え、遊びのイメージをより膨らませられるような関わりを日々心がけている。

また、当園は各部屋に壁がなく、異年齢の子たちが遊ぶ様子を見たり、異年齢の子たちと一緒に遊んだりする時間が多い。このような機会を通して、さくら組の子が遊ぶ姿を真似したいという気持ちが育っているのだと思う。